

PAT-NO: JP02000014253A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 2000014253 A
TITLE: HELICAL TRAINING-SUPPORT POST FOR PLANT
PUBN-DATE: January 18, 2000

INVENTOR-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
IMAI, KAZUHIRO	N/A

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME	COUNTRY
IMAI KAZUHIRO	N/A

APPL-NO: JP10222232

APPL-DATE: July 2, 1998

INT-CL (IPC): A01G009/12

ABSTRACT:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide helical training-support post for plants enabling the training of growing plants in reasonable natural angles and the easy trimming and arrangement of plural plants, having enough strength for preventing the deformation of helical guide lines due to the weight of the plants and capable of training the plants in good appearance.

SOLUTION: A pair of supporting posts 3 having through holes are fixed to a lower reinforcing framework 2 having a root-entwining frame 1, and an upper reinforcing framework 5 having a hook 4 for hanging a wind bell or the like is fixed on the upper parts of the pair of supporting posts. Thus the main body 6 of the framework of the objective support post is formed. Two helical guide

lines 7 are fixed in the through holes of the supporting posts 3 of the main body of the framework, and the upper and lower ends of the guide lines 7 are processed into stoppers 8 by rounding largely.

COPYRIGHT: (C)2000,JPO

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-14253

(P2000-14253A)

(43)公開日 平成12年1月18日(2000.1.18)

(51)Int.Cl.⁷

A 0 1 G 9/12

識別記号

F I

A 0 1 G 9/12

キーワード(参考)

A 2 B 0 2 3

審査請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平10-222232

(22)出願日 平成10年7月2日(1998.7.2)

(71)出願人 598105329

今井 一博

東京都世田谷区代沢5丁目20番1号 ハウス河内1F

(72)発明者 今井 一博

東京都港区南麻布1丁目3番17号 ヘルメゾン南麻布 202号

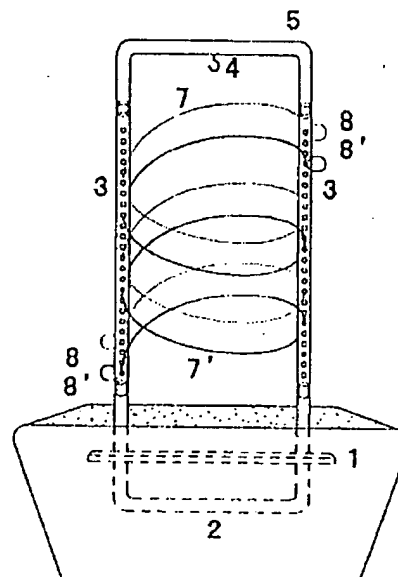
Fターム(参考) 2B023 AD01 AD30

(54)【発明の名称】 植物用螺旋状仕立て支柱

(57)【要約】

【目的】 成長する植物を、無理なく自然な角度で仕立て、複数本の植物を容易に整理しながら、螺旋状ガイド線が植物の重みで変形しないよう強度を保ち、見ばえよく仕立てられる植物用螺旋状仕立て支柱を提供する。

【構成】根がらみ(1)を取り付けた下部の補強用骨組み(2)に、貫通穴のあいた2本の支柱(3)を取り付け、2本の支柱の上部に風鈴等を吊すためのフック(4)を取り付けた上部の補強用骨組み(5)を取り付け、支柱の骨組み本体(6)とし、骨組み本体の支柱の貫通穴に2本の螺旋状ガイド線(7)を固定し、前記ガイド線の上下の端末を大きく丸めた抜け止め加工(8)を施したのを特徴とした、植物用螺旋状仕立て支柱【図6】。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 1本から100本の支柱に、植物を支持するための螺旋状ガイド線を取り付け、成長する植物を、見ばえよく自然に前記ガイド線に巻きつけながら螺旋状に仕立てることが出来るのを特徴とする、植物用螺旋状仕立て支柱である。

【請求項2】 同時に複数本の植物を、容易に仕立てられるよう、支柱にも複数本の植物を支持するための、螺旋状ガイド線を取り付けられるのを特徴とする植物用螺旋状仕立て支柱である。

【請求項3】 支柱と、螺旋状ガイド線が交差する部分の固定方法に、支柱に施した貫通穴に、前記ガイド線を螺旋状に通し、そのときに生じる摩擦を利用して強度を保たせ、連結部材を使用しないのを特徴とする、植物用螺旋状仕立て支柱である。

【請求項4】 支柱の上部と下部に、補強となる骨組みを取り付け、その上部の骨組みには、風鈴等を吊るフックを取り付け、下部の骨組みには、支柱の転倒防止のための根がらみを取り付けるのを特徴とする、植物用螺旋状仕立て支柱である。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、植物を螺旋状に仕立てるための支柱に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来、あさがお等を仕立てる支柱は、小学校の植物生育実験や、趣味の分野において広く利用されている。通常、これらのタイプの支柱は、3本ないし4本の支柱に、金属製もしくはプラスチック製の円形ガイド線が交差するように取り付け、あんどん風に仕立てるタイプの支柱がほとんどであった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】前記従来の、あんどん風に仕立てるタイプの支柱は、構造上簡単なため、組み立てが容易にできる反面、次のような欠点が生じた。仮に、あさがおを仕立てる植物の例として説明する。あさがおの成長過程において、つるを円形ガイド線に巻きつけながら仕立てる段階で、円形ガイド線を一周して次の上段へ立ち上げる際に、不自然で見ばえが悪かった。さらに、前記従来のあんどん風に仕立てるタイプの支柱が、土面に対して水平に円形ガイド線を設置したとき、あさがおのつるが、上昇しながら成長しようとするのに対し、無理に水平に成長させることになり、あさがおの成長に何等かの障害をもたらすことが考えられる。また、通常一本の苗だけでなく、複数本の苗を同時に仕立てる場合が多く、植物の種類にもよるが、成長期に入ると一日に数cmから数十cmつるが伸びるため、つる同士が絡んだり、つるの重みで円形ガイド線が変形したりして仕立てが困難であった。

【0004】そこで、本発明において、これらの欠点を

解消した植物用螺旋状仕立て支柱の提供を目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】本発明が、前記課題を解決するために手段とするところは、以下のとおりである。

【0006】例として、2本の支柱からなる、本発明の、植物用螺旋状仕立て支柱について説明する。まず支柱に、向きを統一した貫通穴を多数施す。この2本の支柱に、用途に合わせた適当な長さの螺旋状ガイド線を、支柱の貫通穴に通しながら、螺旋状に固定する。前記ガイド線の上下の端末は、支柱から抜けられないように貫通穴より大きく丸めることで、怪我を防止する。このようにして、植物を前記ガイド線に見ばえよく、自然に巻きつけながら成長させて螺旋状に仕立てる。

【0007】この状態で、支柱に施してある予備の貫通穴に、新たな前記ガイド線を通して螺旋状に固定し、前記ガイド線の上下の端末は、支柱から抜けられないように大きく丸めることで、怪我を防止する。このように、予備の貫通穴があれば、更に前記ガイド線を増やすことができる。このようにして、植物の苗一本ずつが、絡まることなく整理され、見ばえよく、容易に仕立てることが出来る。

【0008】支柱と、螺旋状ガイド線が交差する部分の固定方法は、支柱に施した貫通穴に前記ガイド線を螺旋状に通し、そのときに生じる摩擦を利用する。更に支柱の貫通穴と、前記ガイド線が交差する前記ガイド線の直径に対し、異径の前記ガイド線を使用することにより、摩擦力が大きくなり強度を増す。このように、摩擦力を利用して強度を保つため、連結部材を使わずに、

【0009】支柱の下部の補強となる骨組みには、支柱の転倒防止のため、根がらみを取り付け、支柱と連結させ補強する。支柱の上部の補強となる骨組みには、風鈴等を吊るフックを取り付け、支柱と連結させ補強する。

【0010】

【作用】本発明は、支柱の上下部に骨組みを取り付け、支柱にあけた貫通穴に螺旋状ガイド線を通して、上下部の端末を支柱から抜けられないよう丸めているため、支柱と前記ガイド線を固定する部材を使用せずに、骨組みの補強及び摩擦力で強度を保ち、すっきりとした植物用螺旋状仕立て支柱である。また、支柱には、前記ガイド線を通す予備の貫通穴が多数あいており、前記ガイド線の長さや高さを調整することや、複数本の前記ガイド線の取り付けを可能とする。

【0011】

【実施例】以下、本発明の実施例について図示例に基づいて説明する。

【0012】例として、2本の支柱からなる、螺旋状ガイド線を2本取り付けた、本発明の植物用螺旋状仕立て支柱について説明する。まず、根がらみ(1)を取り付けた下部骨組み(2)に、貫通穴を多数あけた2本の支

3

柱(3)を取り付ける。2本の支柱の上部に、風鈴等を吊すためのフック(4)を取り付けた上部骨組み(5)を取り付けたのが、支柱の骨組み本体(6)となる。

【0013】支柱の骨組み本体(6)の、貫通穴に螺旋状ガイド線(7)を通して、螺旋状に固定し、前記ガイド線の上下の端末は、支柱から抜けおちないように大きく丸めた抜け止め加工(8)を施し、怪我を防止する。更にもう1本、前記ガイド線を取り付けたのが、植物用螺旋状仕立て支柱(9)

【図6】である。

【0014】本発明は、以上のような構造である。また、製作に係る材料は硬化して割れないプラスチックや、錆びない金属が適する。本発明の、植物用螺旋状仕立て支柱を使用するときは、根がらみを取り付けた下部補強用の骨組みを下に向けて、倒れない程度に土中に埋め込み、植物の種をまくか苗を植えて、成長する植物を螺旋状ガイド線の下部から上部へ絡ませ、螺旋状に仕立てる。

【0015】

【発明の効果】以上説明したように本発明は、摩擦力と

4

支柱に補強した骨組みが、強度を保って、植物の重さで螺旋状ガイド線を変形させることなく、複数本の植物を容易に整理しながら、見ばえよく自然な角度で仕立てることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】下部の補強となる骨組みの正面図

【図2】貫通穴のあいた支柱の正面図

【図3】上部の補強となる骨組みの正面図

【図4】支柱の骨組み本体の正面図

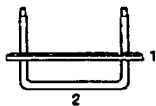
10 【図5】螺旋状ガイド線の正面図

【図6】本発明の植物螺旋状仕立て支柱の正面図

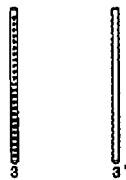
【符号の説明】

- | | |
|---|--------------|
| 1 | 根がらみ |
| 2 | 下部の補強用骨組み |
| 3 | 貫通穴のあいた支柱 |
| 4 | フック |
| 5 | 上部の補強用骨組み |
| 6 | 支柱の骨組み本体 |
| 7 | 螺旋状ガイド線 |
| 8 | 大きく丸めた抜け止め加工 |

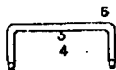
【図1】



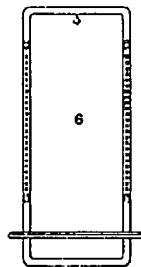
【図2】



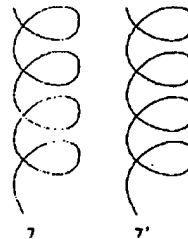
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

